

地方創生に関する特別委員会会議記録（概要）

平成28年8月18日（木）

開 会（午前10時0分）

中村委員長

COOL JAPAN FOREST構想について、7月12日に行いました現地調査及び市民懇談会、7月21日の飯能市への視察を踏まえ、委員会としての構想に対する考え方や意見について、引き続き、協議を行います。

協議に先立ち、構想に関する新たな動向について、経営企画部から説明をお願いします。

【議 事】

(1) COOL JAPAN FOREST構想について

【概要説明】

市川経営企画
課主幹

5月9日の地方創生に関する特別委員会開催以降の主な動きについてご説明いたします。

まず5月27日（月）に、第5回のTEAM START会議を開催しております。TEAM START会議は、市とKADOKAWAのそれぞれのスタッフによる会議ということになりますが、その中では市から今回策定いたしました構想自体の内容を報告するとともに、（仮称）ところざわサクラタウンの運営会社として設立されております株式会社ところざわサクラタウンの新体制について、KADOKAWAから説明があった

ところでございます。また、角川会長が内閣府のCOOL JAPAN拠点構築検討会で、こちらの構想の概要についてご説明をされておりましたので、そのあたりの報告もございました。あわせて、COOL JAPAN FOREST構想の重点推進エリアとして設定しているエリアの今後の将来的に思い描いていく内容等について意見交換を行ったところでございます。また、この後ご説明いたしますが、6月10日に行った協定締結式について事前の確認をしたところでございます。5月27日のTEAM START会議については概ねそのような内容でございました。

次に、6月10日（金）には、所沢市役所8階大会議室におきまして、所沢市・株式会社KADOKAWAによるCOOL JAPAN FOREST構想推進に関する協定締結式を行いました。この締結式におきましては、所沢市長藤本正人及び株式会社KADOKAWAの代表取締役社長の松原眞樹様のそれぞれの署名を協定書に署名をして頂いたところでございます。また、その際にはKADOKAWAの角川会長にもお立ち会いをいただきまして、協定締結式を執り行ったところでございます。その後には、模型などを使用して、記者に今後のところざわサクラタウンの構成がどのような形になるのかといったこともお話がされました。

続いて8月4日（木）には、都市計画審議会におきまして東所沢地区の（仮称）ところざわサクラタウン周辺地区の都市計画変更の手續に関するものと衛生センター、こちらもサクラタウンの敷地を含んだ関係したところでございましたので、衛生センターの敷地に関する都市計画の変更手

続、それぞれが議題としてあがり、賛成多数ということで可決をされたということでございまして、現状は8月16日に都市計画変更手続きに関しましては、告示がされているところでございます。また、6月議会におきましては、サクラタウンの北側の道路、市道2-572号線の拡幅及び交差点改良等に関する補正予算が議決をいただきましたので、現在その予算に基づいて準備を進めているというような状況でございます。

【質 疑】

平井委員

都市計画審議会で賛成多数ということは反対者がいたということだが、何と何に反対したのか詳しく教えてほしい。

市川経営企画
課主幹

手元に資料がございませんので出席した際の記憶で申し上げますが、都市計画の手続3種類のうち、防火地域の指定については全員一致で可決、用途地域の変更と地区計画の変更については賛成多数というような状況でございました。意見としては、一企業に対しての利益に繋がるようなことではないかというようなものであったと記憶しております。

平井委員

用途地域の変更ということは何がどうなっていくのか。また、容積率も変わるし、高さ制限もあるが、どういうところを反対したのか、その辺のところをもう少し詳しく説明してほしい。

市川経営企画
課主幹

用途地域の変更につきましては、こちらはもともと準工業地域の容積率として200パーセントでございましたが、これを300パーセントに変更するといった内容でございます。また地区計画の中で、それぞれ10メートル後退するという中で、高さを60メートルに設定をするというような内容でございましたが、反対の主旨としましては、その内容自体に反対ということではなく、こうした変更によって、このKADOKAWAの土地にあたる部分の土地の価値が上がるということは、売却が済んだ後に土地の価値が上がるというようなことになるので、一企業に対して有利な条件を与えるのではないかとという主旨での反対でございました。

平井委員

反対した理由の詳細を確認したいので、結果の内容を後で資料としていただけないか。

市川経営企画
課主幹

都市計画審議会の所管は街づくり計画部になりますので、そちらの都市計画審議会の記録ができた時点で公開ということになります。

城下委員

委員会前にいろいろ現地視察も行ったたりして聞きたいこともあるが、まず今回のこのKADOKAWAの事業で、まず1点目だが、これはKADOKAWAと所沢市が一緒になってTEAM STARTの中で構想段階から構築している。平井委員も都市計画変更のことで言及していたが、そうなるこの事業というのは、市としての公共事業になるのか。あまり

明確にされていないが、どのような位置づけか。

市川経営企画
課主幹

構想の推進に関しては公共事業という認識は持っています。ただし、構想の冊子の中でもお示ししておりますとおり、（仮称）ところざわサクラタウンの建設及び運営につきましては、基本的にはいわゆる企業の事業というような形になっておりまして、その周辺の整備やこのエリアの中での産業振興、環境整備といったものについては公共事業として行っていくものだというような役割分担があるものと考えております。

城下委員

そもそも周辺整備を担うもともとの要因、原因があるわけだが、KADOKAWAがそこを開発することで市も公共性ということで環境整備をしていくというわけで、周辺整備の具体的な内容というのはもう詰められていると思うのだが、その辺の議会への情報提供がまだ出されていないので住民にも説明のしようがない。その辺は、今どこまで市として情報を得ているのか。また、どこまで議会にも説明がされるのか。9月議会には、その辺のところは出てくる可能性があるのか。

市川経営企画
課主幹

まず9月議会に出てくるかどうかということにつきましては、議案に関することですので、ここで明言をすることは遠慮させていただきます。また、周辺整備の方向性としましては、まさにこの構想の冊子でお示しをしているようなところがございますので、現在、調整を進めている段

階でございます。そのあたりが、例えば東川北側の産業用地創出部分でありますとか、そのあたりについては調整がつき次第、また明らかにした上で説明等をさせていただければというふうに考えております。また、周辺整備の具体的内容ということにつきましては、道路拡幅等の問題もありますが、まずはその調査及び設計等を行わなければ具体的な事業の概要というのはなかなかご説明できないと思いますので、それは順次、例えば予算化をお願いするようなものがあれば、当然議決をいただいた上で進めていくというようなことで考えております。建物自体の建設の計画等につきましては、ここで都市計画の変更手続が完了したところでありますので、KADOKAWA側からは、ある程度建設計画がはっきりと公開できる段階で地元や市民に説明をしていきたいと伺っております。

平井委員

要するに、周辺整備とは、KADOKAWAがいろいろなものをつくるその周りの開発を支えたり、開発に伴う環境の悪化を予防したり抑制したり、あるいは道路や駐車場を含めた交通アクセスのこと、騒音とか大気汚染、上下水道に関すること、廃棄物の処理など、そういう整備のことだと理解してよいのか。

市川経営企画
課主幹

まず、周辺への影響、（仮称）ところざわサクラタウンが建設されることによる周辺への影響、例えば騒音でありますとか、交通渋滞等への解決については、KADOKAWAが責任を持って行っていくものというふう

に考えております。ただし、そのそこに向かってくる人たちが例えば道路が混雑することによって設備としての安全性などがある程度脅かされるようなものがあるのであれば、当然歩道の設置でありますとか、周辺への注意喚起等は市が責任を持って行っていくというようなことになるのかとは思いますが。

平井委員

それは、KADOKAWAがサクラタウンをつくることに伴う影響に対する周辺整備はKADOKAWAが行うというという理解でよいか。もう一度確認するが、それはKADOKAWAがやるべきだと思っているのか。そうすると所沢市がやるのは、そのほかに住民に与える影響か。その辺のすみ分けがわからないので、もう少し詳しく説明してもらえるか。

市川経営企画
課主幹

具体的に申し上げますと、(仮称)ところざわサクラタウンの施設が建てられる敷地及びそれを囲むような道路等についての安全性等を確保していくという意味では、そこはKADOKAWAの方が行っていくものであろうと考えております。ただし、広域的に所沢インターでありますとか、所沢駅周辺の方面からの来場者に対して、車もそうですし公共交通機関を使用される方も含めて、そういったところの安全性と申しますか、交通上の安全性を確保するというところについては通常の市内の交通安全とか、そういった意味での整備は市が行うというのは当然だと思います。また、今回の整備という部分につきましては、単に安全確保だけではなく、サク

ラタウンに来場される方たちが非常に多くなっていくということもござ
いますので、そういった方たちをほかの観光のポイントであるとかに流れ
をつくっていくというようなところで所沢市全体の賑わいをつくってい
くというようなところでの整備も所沢市の役割としてはあるものと認識
しております。

平井委員

今、交通安全のことを非常に強調されているような答弁だったが、道路
の拡張とか、駐車場を含めた交通アクセスというのはどちらに入るのか。

市川経営企画
課主幹

いわゆる来場者の車両を収容するための駐車場の整備というのはKA
DOKAWAが責任を持って行っていくものと考えています。

平井委員

騒音とか大気汚染、上下水道の整備とか廃棄物の処理とかはどこがやる
ようになるのか。

市川経営企画
課主幹

騒音、大気汚染、上下水道等は、いわゆる施設から上下水道でいきます
と、施設からきちんと上下水道のパイプまで繋ぐというところについては
KADOKAWAが整備するものと思います。騒音や大気汚染等につきま
しては施設からの発生するものにつきましてはKADOKAWAの方で
構想策定の段階で調査なども行っており、これはKADOKAWAが対応
していくものと考えております。

平井委員	ほとんどそういうものはKADOKAWAが責任を持ってやるという理解でよいか。
市川経営企画課主幹	そのとおりでございます。
城下委員	今、騒音、大気汚染、交通量の調査の話があったが、KADOKAWAが調査をするということだったが、昨年度の交付金を使った（株）角川アスキー総合研究所に調査委託したその調査内容のことを言っているのか。
市川経営企画課主幹	そのとおりでございます。あの調査は事前調査のようなものでございまして、今後おそらくは詳細な調査が行われるかと思いますが、その中でKADOKAWAとしては具体的な対応を考えていくものだと思います。
大石委員	今後の所沢市の取組についてだが、半年ぐらいの短期のことと、2年半ぐらいのことだが、まず6月に新たな発表がされ、いよいよこの構想が地元経済に少しでも好影響を与えていくように地元の企業とKADOKAWAを結びつけるため、市役所はその紹介ぐらいでよいと思うが、どういう構想があって、どのようにその取組が進んでいるのか。また、経営企画課が中心になってやっているが、構想が進むと、例えば産業振興とか地元

の町内会関係とか市民部とか色々連携を図っていかないとやり切れない
と思うので、今後の市役所内部での取組の方針についても、説明をしてほ
しい。

市川経営企画
課主幹

まず地元の経済との企業との結びつきというところにつきましては、プ
ロポーザルで土地を売買する際にもKADOKAWAで地元企業の活用
といたしますか、繋がりをつくる上で市と商工会議所と協力をしながら、そ
ういった協議等を行う場を持ちながら、地元企業との繋がりをつくってい
きたいというような提案を出しております。すでに、商工会議所との関係
は、市が間に入った上でKADOKAWAとの顔合わせなどもさせていただ
いているところではございますが、まだ具体的な話が進んでいるという
状況ではございません。実態を申し上げますと、KADOKAWAとして
も今回の都市計画変更の手続をへて、かなり大規模な建設計画を立ててい
く必要があるということもありますので、今そちらの方に注力されている
というような状況でございます。今後、そのあたりが落ち着いてきますと、
具体的にどのような活用をしながら地元の商店や企業と協力していける
のかというようなことを検討していきたいというふうにも伺っておりま
すので、そのタイミング的にどのあたりになるかということではなかなかは
っきり申し上げにくいのですが、KADOKAWAとしても動き出したい
ということはおっしゃっていますので、そのタイミングをお待ちいただき
たいと思っております。また、市での体制ですが、この4月に所沢市TE

AM START本部というものを設置しております。こちらは要綱設置という形でありまして、本部長は市長で、副本部長は副市長、教育長、上下水道事業管理者、本部員が各部長職というものでございます。その中でもそれが1つの正式な体制という形ではございますが、特に産業経済部ににつきましては、地元の産業振興や地元PRの面で、かなりこの構想に関わりが深い産業経済部とはかなりの頻度で協議等を行いながら現在進めているところでございます。その地元と企業との繋がりという点でも産業経済部がある程度タイミングを見て、きちんと表に出てくるようなアプローチがされるかと思いますが今しばらくお待ちください。

大石委員

企業の場合はある程度取りかかりさえできてしまえば、やる気のある企業が自分たちで売り込みをかけるから、やる気のある人たちが取り組んでいただければよいので市はその紹介だけをもっとしてもらえれば取りかかりやすいと思う。それから次の質問は地元自治会との連携だが、例えば外国人の観光客がこれから何十万人も来るといったようなことが想定されているわけで、その中で東所沢の駅前通りには商店街もないが、例えば商店街をつくって一緒に連携させていくとか、商業観光課などに投げかけてやるべきだと思うし、例えば今後地元の自治会と一緒に外国人観光客を受け入れるような体制をつくっていかないといけないと思う。それでいきなり中国や台湾の人がたくさん来られて言葉がわからないとか、標識や案内がなにも出ていないとかいう状況でも困る。これからはコスプレ

ヤーがたくさん来るかもしれない。いきなりそういう状況になってくると地元に住んでいる人たちも困ると思うので、やはり2年ぐらいかけて、きちんと説明し、標識などもどういうふうに設置して案内しようとかという話を地元の人たちとしなければ、おそらく1年ぐらいでやっても追いつかないので、先を見据えて市民部と一緒にやって取り組まなければならないと思うのだが、その点についてどう考えているのか。

市川経営企画
課主幹

外国人の受け入れにつきましては、市でもKADOKAWAでも非常に大きな課題であると認識しているところでございます。例えば観光コンシェルジュというようなものは、今は日本人向けとして中心市街地近辺で対応しているようなものがございますので、例えばそうしたものを外国人にも対応できるように、外国語が使えるコンシェルジュを組織していくというアイデアも出てきているところでございます。地元との体制をつくっていくというところでは、委員ご指摘のとおり、商店街組織がないというところが課題でして、そこは所沢商工会議所などに間に入っていただきながら、地元の商店との繋がり、結びつきをつくっていければとは考えているところでございます。また、KADOKAWAの方でも地元の商店へのアプローチをしていきたいとおっしゃっていますので、そのあたりの体制をきちんと整えられるような形で今後検討を進めたいと考えております。

大石委員

3年はあっという間なので、商店街1つつくるにしても、なかなか地元

の自治会の人たちとの連携を図るのは難しいと思う。例えば先日視察に行った飯能市では、ムーミンを使ったふるさと納税をやっており、こういったことも今後十分検討できると思ったのだが、その点について、部長はいかがか。

三上経営企画
部長 私も、あと3年と言ってもあつという間だと思いますので、そういった中で、外国人向けの体制を含めた市の対応を図っていく上で、地元自治会、商工会議所等とも連携を図りながら、早急な検討を進める必要はあると認識しています。

大石委員 新しい設計ができて、発表できる目途はいつ頃か。

市川経営企画
課主幹 KADOKAWAから正式にそのあたりの時期を公表されているわけではないのですが、今伺っている限りでは来年度の4月ぐらいからは建設を開始しないとタイミング的にも間に合わないということですので、開発の申請が年末から年始あたりには行われることを考え逆算していきますと、11月か10月の終わりぐらいには建設計画のかなり固まったものはできあがるかと思います。そうなった際には角川会長の言葉ではありますが、大々的に記者発表をしていきたいということですので、またその際には皆さんにもお知らせしていくということになります。

島田委員 外国人の対応策で、いろいろ案が出てきているということだが、語学の習得には時間がかかると思うが、具体策として、現在、外国人へのサポートとしてはどんなものがあるのか。

市川経営企画課主幹 習得の方の事業も当然やっていかななくてはいけないかと思いますが、まずはその中国語や韓国語、英語に対応できる方たちを一般から応募しまして、そういった方を登録し、コンシェルジュをやっていただくという方法が1つあります。一方で、地元の方たちにそうした言語の習得を促す教室のようなものをしていくということも1つの案としてはあると思います。標識については、外国語対応の標識の設置が当然必要かと思いますが、ガイドマップ等の作成なども検討していく必要があるということは、アイデア出しの中で出てきているところがございます。

島田委員 今後、議会で新規事業的な形で出てくるとか、具体的なスケジュール的なものはまだ進んではないか。

市川経営企画課主幹 先程申し上げましたとおり、議案としてご提示できる段階になりませんと、そのあたりの詳細は申し上げかねるかと思います。

島田委員 現地調査でコンポストセンターのところも少し見させてもらったが、以

前にあったKADOKAWAからの話では、コンポストセンターを駐車場にして、今後できるKADOKAWAの建物に橋を架けたいというような話が出ていたかと思うが、やはり橋を架けるということになると、東川が県の管轄なので、なかなか難しいということも伺っているのだが、その橋について、現状ではどのように話が進んでいるのか。

市川経営企画
課主幹

こちらの橋に関しましては、建設部とこちらでも協議等を進めているところでございますが、実際にはコンポストセンター跡地をどのように活用するのかということがある程度固まってからという話もあります。現在の方向性といたしましては、市の農産物等の販売をする場として、駐車場もそこには設置するというようなところは考えているところでございますので、本当に橋を架けてサクラタウンと直接行き来ができるようになれば、相互作用で、よりエリアへの集客が高まり、相応の効果があるものと考えているところです。ただ、許認可的な部分でありますとか、予算的にもかなりかかるであろうと見込まれておりますので、ここについては設置するという方向で定まっているのかということ、現在ではそこまで辿り着いていないという状況です。

島田委員

橋についてだが、KADOKAWAがこの間説明していたような、直接の橋は結構ハードルが高いということを現地で説明を受けたが、新たな橋、川に架けるようなタイプのものもなかなか現実的には厳しく、ハード

ルが高いという話も聞いている。現段階で県への働きかけみたいなことは考えているのか。

市川経営企画
課主幹

松郷橋自体の拡幅等には必要があるのではないかという議論はございます。歩行者が南北の行き来をする上で、まず、安全確保をしなければいけないだろうということで、橋の拡幅の方向で考えるのか、それとも別の橋を架けるのかというようところが今の議論の中身となっています。またそういった形で架けることについて、許可が出るのかどうかというところは川越県土事務所の担当者等と確認はしているところで、いわゆる市のほうで架けるのであれば、占用許可の面は解決できるだろうというようなことを伺っております。

島田委員

親水公園についてだが、見させてもらおうと、コンポストセンターもあるが、どのぐらいの規模にするかにもよるが、コンポストセンターの裏に畑があつて、ああいう形になってくるので、そういった畑の地権者の方の了解等も必要になってくるかと思うが、その親水公園の整備についての考え方と進捗状況、また計画について聞きたい。

市川経営企画
課主幹

親水公園については、角川会長からは何度か説明があるところですが、実はKADOKAWA側がこういうふうな絵を描いたら良いというようなことでの、あくまでも希望の部分でございまして、まだ市が了解してい

るような状態のものではありません。実際に河川の担当と確認している限りでは、東川の水量の面ですとか、川づくりなどの面を考えると、あの場所に親水公園を作ること自体が果たして可能なのかということで、課題が多いと思われます。ご覧いただいたとおり、あの場所には滞水池などもありまして、掘り下げて親水公園にすることが果たして機能的に可能なかどうかというところから、今議論になっている状態です。今はつくっていく方向であるというような状態ではございません。ただ、隣にコンポストセンターの敷地がある場所になりますので、PRにおいて、ある程度人々が集えるような、憩えるような整備の仕方はあると思っております。もし公園として整備するのであれば、特に河川敷まで降りなければ、河川課や川越県土事務所は関係のない話になりますので、そのあたりはまた引き続きということになると思います。もう1つ、あの敷地自体は土地利用転換推進エリアに当たっているところでもございまして、公園として整備することがよいのか、もしくは産業用地として活用していくのがよいかということも地元の地権者の方たちと協議をしていかなければいけない部分でございますので、そういった手続を経た上で、ある程度、整備の方向性について決めていきたいと思っております。

亀山委員

観光ということで、例えばWi-Fiだとかということも必要になってくるかと思うが、これを民間の方に促していくのか、それとも公共ということで市が積極的にやっていくのか。また、市民懇談会の際に、松郷工

業団地を抱えている自治会の方から、松郷工業団地のことでの説明で産業経済部が来たが、KADOKAWAが来たり経営企画部が来たりして、それぞれで話を聞いているが、住民側からすると同じエリアの環境が影響を受ける話なので、住民説明の整理をしてもらいたいというような話もあった。今後そういったことをサクラタウン、TEAM START本部ということで各部長職が集まって会議もされると思うが、今後の住民へのもう少しわかりやすい説明ということについて、どのように考えているのか。

市川経営企画
課主幹

まず、観光面でのWi-Fiの設置の方針ですが、Wi-Fiエリアの設置に関しては、当然市もある程度関わった上で、その店舗なり、無料Wi-Fiというものについて、そのそれぞれの店舗での取組を促していくという、その両方の側面から進める必要があるだろうというふうに考えております。川越市が、川越まつりに際して、本川越駅周辺や商店街のあたりを無料Wi-Fiエリアとして設置したという事例もございますので、民間での自発的なWi-Fi設置と合わせて、所沢市としての観光Wi-Fiというような設置も合わせて行っていきたいという方向で考えているところでございます。また、住民説明の部分でございますが、確かに構想策定をした後、現在、地道に説明会をやっている状態ではありますが、やはりなかなか地元の方たちのところに情報が行き渡っていないというご不満の声が上がっているということを私どもも認識しておりまして、その状況の中でKADOKAWAの方で、建設の詳細、そのあたりが固まってき

ていなかったということもあり、具体的な説明ができなかったというよう
な状況がございます。ここでようやく都市計画の変更手続も完了しまし
て、今後は具体的な施設の機能などをご説明できるような状況が整って
きますので、例えば産業エリアの部分であるとか、構想全体がこれから目
指すもの、このサクラタウン自体がどういう機能をして、周辺の方たちに
どのような影響を与えるのかといった、そういった要素を踏まえた全体的
な説明の機会を設けていきたいと考えております。地元の方には特にご協
力をいただいく部分もございますので、丁寧に説明をしてまいりたい
と考えております。

杉田委員

地元住民は、自治会長も副自治会長も含め、まだ私たちも何となく理解
ができていない。一般の住民については、全くわかっていないみたいな印
象だった。これからやるということでよいのだが、地元住民と一言でいっ
ても、どのエリアとか、どの辺までを考えているのか。

市川経営企画
課主幹

昨年7月に一度、その地元の自治会、東所沢一丁目から五丁目、東所沢
和田の一丁目から三丁目、あと東川自治会、松郷工業団地と合わせて9自
治会と松郷工業団地の役員の方という10団体に対してのご説明を行
いましたが、構想の地元という意味ではその10団体が概ね地元にあたる
という認識を持っております。4月の都市計画変更の手続の際にはその都市
計画の該当地区が含まれている東所沢三丁目自治会には個別に説明会を

させていただきましたが、広域的には行っていなかったというようなこと
もありますので、私どもの反省するところでございます。今後はその10
団体を対象としたような形で、できるだけ広く行うようには考えていると
ころではございます。なお、周知の活動としましては、ここで8月の広報
にも記事を掲載させていただいたところではございまして、松井地区では、
7月2日に松井まちづくり協議会へ個別に説明会をさせていただいたと
ころでもございます。また柳瀬地区においては、現在申し入れを行ってい
るところですが、スケジュールの調整等もあり、柳瀬まちづくり協議会へ
の説明会はまだ実施できていないところでございます。

杉田委員

駅から現地へ向かう現地調査をした時に、駅前通りを行って、武蔵野銀
行があるところの交差点をそのまま真っ直ぐ進行し、次の信号の交差点で
左に曲がり、東所沢公園を抜けて行ったのだが、これがメインの通路のよ
うな感じなのだと思う。市の財産である公園のところを、それに向けて変
えていこうという考え方もあるかと思うが、その辺はいかがか。

市川経営企画
課主幹

駅から徒歩で来場をされる方を想定した整備という意味では、まず東所
沢駅前通りの両側の歩道について、植樹の老齢化した樹木については植え
替えなども考えた上で、そこにはKADOKAWAのコンテンツを活かし
たオブジェを置くなど、その通りを歩いて、会場まで向かいたいと思える
ような仕掛け、動線づくりをしていきたいと考えております。また東所沢

公園はサクラタウンの敷地に入っていくための導入路のような役割を果たしていくことになりますので、ある程度、園路の拡幅も必要ではないかと考えております。東所沢公園は自然の環境が非常に素晴らしい公園でもありますので、そういった良い部分を活かした憩いの場として、また導入路としてふさわしいような整備を進めたいと考えています。

城下委員

このCOOL JAPAN FOREST構想の重点推進エリア、半径500m以内について何点か聞きたい。TEAM STARTの会議録の中でも、当初会長自身も、IT関係のベンチャー企業を育成する場にしたことだが、このIT特区について所沢市はどう考えているのか。もし申請するとしたら、自治体の負担など、自治体に関係する部分ということとしてはどういうことが想定されるのか。私たちが住民の意見を聞く機会があったが、その時に地域を活性化することは良いが、いろいろな所沢市の事業を予定している中で、一体この部分がどれぐらいの費用がかかるのか。事業は結構細かく総合計画に位置づけて、中長期財政計画にもそれを読み込んでやってきているわけだが、このCOOL JAPAN FOREST構想については、どれぐらいの事業なのかということが全く私たちにも見えてこないの、市民にも説明ができない。一体どれぐらいの費用を投じていこうと市は考えているのか。また、IT特区、ベンチャー企業育成となると、当然電力が必要で、この前の説明会でも相当な電力使用量が想定されるということで、鉄塔の建設については住民も反対だとい

うことなので、地中化なのか、その辺の話について、現段階で市はどれぐらい情報として把握しているのか。

市川経営企画
課主幹

まず、I T特区、ベンチャー企業の育成という視点のところでございますが、I T特区という言葉が角川会長が使用されていますが、具体的にどのような許認可とありますが、いわゆる規制緩和のようなものを求めるのかというところはあまり具体的にされているものではなくて、この地区が特徴的な産業エリアという形で集積できないかという意味でのI T特区という言葉が使用されていると、その後、確認しております。もし特区を取っていくような場合に、自治体がどのような負担をしていくのかということでありまして、特区申請自体が基本的には自治体を中心としたエリア的な指定になっていくかと思っておりますので、管制関係についてはおそらく自治体が負担していく部分があるかと思っております。もしその際に規制緩和をする手続が例えば県に直接申請しなければいけないものを市が受付をしますとかそういう緩和の部分であれば当然市の方でそういった窓口設置などの負担は必要になってくるのではないかとというようなところまでは調査がされています。2点目のいわゆるこの全体の事業計画として、どの程度の費用がかかるのかという部分でございますが、いわゆるハード整備のような部分というのが、方向性だけは今構想の中で示しておりますが、具体的などのような整備をするのかというのは現在まさに検討の段階ということになります。その全体費用というのはある程度基礎設計なりをした

上でないとなかなか算定はできないものでございますので、現状では全体費用についてはお示しすることができていない状況でございます。数年程度かかるような計画の流れの中では、全体費用を算出できた時点で積み上げていくことは可能かと思っておりますので、その段階ではお示しできるのではないかと考えております。次に電力量、鉄塔の関係ですが、これは以前にもご説明をさせていただいたところでございますが、東京電力から何らか示され、地元の話が伝わったようなところから、地元の方たちの約300筆の署名を集めたものが所沢市及びKADOKAWA、東京電力、その3者に対して全く同様の内容で提出されております。その際には私どももその署名の代表者の方とお話をさせていただいた上で、その後、所沢市として、東京電力に対して、住民の方たちの不安がかなり高まっているので、今後の計画を進めていく上では、速やかな情報提供と住民への説明をしてくださいという趣旨のお願いの文書を市長名で提出しているところでございます。またその後にKADOKAWAとも、またKADOKAWAと所沢市と署名の代表者3者とでのお話などもさせていただいており、それぞれの立場での説明や、どういったことが東京電力に対してできるのかということについての話をしております。その際には、今後、例えば、東京電力への申し入れやお願いの部分については3者で協力しながら進めていくというようなことは確認しているところでございます。

城下委員

全体事業計画の総事業費の話がされていたが、ハード整備は具体的には

これからということで、基礎設計ができた段階でと言ったが、先程大石委員の質疑で出た新しい設計がそうなのか。新しい設計が発表されるのがないか。早いとしても11月頃か、10月末というのはそのことを言っているのか。

市川経営企画
課主幹

まず所沢市としてお示しできる事業費の全体像というところには、サクラタウンの建設費は含まれておりません。周辺の道路整備やコンポストセンターの敷地の整備、いわゆる東川北側の産業用地創出に関して、例えば区画整理事業になるとかということがあれば、当然そういった部分での事業費等が関わってくるのかとは思いますが、今お話した全体像としての事業計画の費用の部分というのは周辺整備の部分だけのことをお話しています。先ほどの新たな建設計画というような話の中で出てきたものについては、KADOKAWAが建設する（仮称）ところざわサクラタウンの建設費、これについてはKADOKAWAの方で算出をしておそらくは建設計画の公表の段階でいくぐらい総工費がかかるのかというようなことが、KADOKAWA側から公表されるものだというふうに考えております。

城下委員

そうすると市の周辺整備というのは東川の北側の整備と道路の拡幅とコンポストセンターの3つだが、ここの部分が具体的にはっきりした段階で総事業費が積み上げで出てくるということかと思うが、具体的にいつ頃

までにこの3つというのは整備をしていかななくてはいけないのか。当然定期的にサクラタウンと一緒にやらないといけないという認識があるが、いかがか。

市川経営企画
課主幹

全て3つとも同時期にという形ではないかと思いますが、まず現在6月の補正予算での川沿いの市道2-572号線についての道路拡幅及び交差点改良については、間違いなく、(仮称)ところざわサクラタウンが完成するタイミングに合わせて整備が完了するということを想定しております。またコンポストセンターも、できるだけサクラタウンの開設に合わせて、運営が開始できればとよいというふうには考えております。ただ、コンポストセンターについては、具体的にどのような活用の仕方にするかというところはまだ決定はされておられませんので、あくまでも目標として掲げているような段階です。また、東川北側の産業用地創出に関しては都市計画変更の手続、そこはいわゆる市街化調整区域になりますので、産業用地を創出していく上では都市計画変更、用途地域の変更等が必要になってくるかと思っておりますので、そのあたりは県の都市計画との調整が必要になってくるものと考えます。この完成についてはところざわサクラタウンの完成に間に合わせるというような設定ではなく、それ以降にも続けて進めていくというような想定をしております。

平井委員

今の話の続きだが、COOL JAPAN FOREST構想そのもの

は大きな雑駁したもので良いと思うが、この民間の代表開発であるところ
ざわサクラタウンについては一応市としての考え方があるかと思う。規制
とか、誘導とか、市の考え方を反映しないとやっていけないと思うが、そ
ういった具体的な項目というのはあるのか。

市川経営企画
課主幹

まず、ところざわサクラタウンの規制という意味では、今回の都市計画
変更手続の中で1つ縛りを設けていまして、まず建物の周囲は10mセッ
トバックをなささいということで、一部5mの位置があるかと思いますが
が、周辺に歩道上の空地、いわゆる遊歩道のような形で最低3m幅を設け
た歩道を設置すること、というようなものがございます。あとは敷地の中
に1,500平米の広場を設置すること、そういうものもございまして、
かなり細かいところになってしまうので、全てを申し上げるのは難しいの
ですが、あとは用途の関係で風営法に関わるような用途には使用できない
というような縛りがあります。都計審の中で、いわゆる都市計画変更の中
でまず縛りをかけているというようなところでございます。また規制的な
部分とは少し違うと思いますが、先ほど申し上げた構想推進の協定締結に
おきましては、サクラタウンから所沢の魅力を発信していくことに対して
協力をしていただくであるとか、COOL JAPANの総本山としてふ
さわしい施設にしていただきたいというようなことに関しては協
定締結の中でそういった文言を据えましてお約束をいただいたというこ
ろでございます。

平井委員

協定の中でそういう約束ごとをしたということだが、市はこれからもそういう意味では指導をしていくというか、そういう問題を指摘してきちんとやっていくということでは、どういった体制をとっているのか。

市川経営企画
課主幹

これまでの協議の場として使っておりましたTEAM STARTという場では、市の抱負と意向を先方にも伝えながら、調整をさせていただいているというところでございます。単にそれは約束ごとではないということにはなってしまうかと思いますが、それはきちんと地元のことを考えて進めていただけるということでKADOKAWAからも話をいただいておりますので、そこにあまりにも反するようなことが行われた場合にはこちらの方から指導はしていきたいというふうに考えています。

平井委員

協定の中にそういったこともきちんと盛り込んでいるということか。

市川経営企画
課主幹

そのとおりです。

杉田委員

住民の意見にもあったのだが、駅前通りについてその他もできればもっとたくさんと言っていたが、無電柱化というところをやってほしいという意見があった。私も質問したことがあったが、その辺は国の構想的なところ

ろでもある程度そういう方向性があったと思うが、その辺はどのように進めているのか。

市川経営企画
課主幹

無電柱化に関しましては、構想の冊子の中でもKADOKAWAと協同で行う取組の項目の中で、施設周辺の電線地中化への電力会社との調整と表記をさせていただいているところではございます。まだKADOKAWAと一緒に行ったのではないのですが、東京電力を一度訪れ、今進めている構想と、電線地中化について今後お願いしていくことになるかと思うというようなことを、まずはお話をさせていただいているという段階でございます。例えば、市道2-572号線の工事などもありますので、そのタイミングに合わせて東京電力でも考えてもらえないかという働きかけは行っているところです。東所沢の駅前通りのところにつきましては、なかなか工事等のタイミングであるとか東京電力としての方針自体を定めていかなければいけないということもありますので、東京電力としては今のところ明確な答えは避けさせていただきたいというような話は聞いております。

松本委員

これまでも、また、この間地元で市民懇談会を委員会主催でやった時にもいろいろな意見が市民から出ている。具体的な要望も出ている。要は定期的に情報を流してくれ、話が煮詰まってないから情報を流せないというのもあるだろうが、定期的に流してほしいということ、また、初めて聞

いたとか、情報が少ないとか、そういう不満もあったので、その辺は物理的に忙しいだろうが、ぜひ今後とも計画をして市民に説明していただきたい。それで、大石委員からもあったが、商工会とかKADOKAWAも出ることが決まったわけだが、KADOKAWAが出ることによって、KADOKAWAに関連して整備するものと、KADOKAWAが来るか来ないかはともかくとして、あそこにAという企業が来たのだから、それに伴って周辺を整備するというのはKADOKAWAの情報を得なくても整備できることがあると思う。例えば、東所沢商店街がないという話があったが、所沢市全体として商工会の商工の振興を図っていくには商工会が必要だ。組織が頭になってやるのも必要だが、具体的に東所沢に限った活性化をするということになると、KADOKAWAが来るか来ないかは別として、例えばTEAM STARTが多忙ならば、この件については、この機会に産業経済部はどうだろうかとか、東所沢の商工会をつくるかつからないかとか、武蔵野銀行や周辺の金融機関の支店長を集めてそういう仕掛けをしないかとか、KADOKAWAが来るからそういうアイデアになるのだが、そういうふうな動きをTEAM STARTとは別の各部の職員で、これに絡んだ東地域の活性化のための仕掛けを具体的にしてはどうか。あくまで構想といっても、かなり具体的なWi-Fiの話があるのは良いが、もう少し具体的な動きが見えて来ないと、物理的にやるものと、KADOKAWAから話が出てきてからやるのと、例えば先程の観光の通訳の問題とか、外国語の問題とかあったが、それとは大きく違ってくると

思う。どんどん各部に分けてやってもらいたい、同時並行で進めてもらいたいというような仕掛けを作ってもらいたいと思うが、その点の動きについて、どういう考えがあるのか。また、今回の8月の広報でもいろいろとわかりやすく関心を持てるような情報が提供されているが、今の時期は無理かもしれないが、あれに一步進んで例えば公園はこういうふうにしていくとか、あるいは道路はこうしていくとか、東川の橋はこうしていくというような、市としてあの辺の整備はこうしていくということを、この機会にやっていくということを、その絵を、ぜひなるべく早くに、KADOKAWAの建設計画が固まった今年の暮れから来年にかけての公表できる時期に、また相まって周辺の整備は道路が何mになるとかいうようなことも知らしめていただきたいがいかがか。最後に具体的なことを2つ聞きたい。1つはKADOKAWAの用地の一番東端から天理教までの東所沢中央通りを出るところまで、物理的に拡張できないという話を聞いているが、思い切って水も少ないから、逆に道路の利便性を考えて、そこだけは蓋をしたらどうかという案も出ている。それを検討するかどうか。もう1つは、例えば国道463号から松郷橋から来る道までの道路は本当に広がるのかということ。国道463号から入ったところに、建築中だがそういう話もあるので、あの道路は広げるに値するののかも含めてできれば年末ぐらいまでに何らかの形が地域にわかるような説明ができればありがたい。その辺についての考えを示してほしい。

市川経営企画
課主幹

まず、商工会の組織についてですが、ご指摘のとおり、まず地元の商工会を設置していくこと自体についてはおそらく構想の中の1個ではなくて、地元としての組織を形成していくというものだと思います。ただ、この構想というか、KADOKAWAが来るというようなことがきっかけになって、そういった形に繋がっていくというのは1つ私たちの構想を進めていく意味があるというか、価値があるというふうに考えております。このあたりの商工会設置であるとかというものも地元の意見とかを確認していく作業については所管である産業経済部が進めていくものと考えておりますので、そこは所管に伝えてまいりたいと思います。次に地域への具体的な情報の発信ですが、やはりまだこちらも具体的なところはまだなかなか定まっていない部分がかかなり多くて非常に申し訳ないのですが、その辺が固まり、公表できる体制が整い次第、順次、情報は発信していきたいと考えております。

中村委員長

開催して1時間以上たっているが、今回この委員会で執行部をお呼びして委員会を開催した経緯は、視察や地元との意見交換会というものを行った結果、これからすぐに取り組むべきことについて委員会として何か執行部に申し上げることがあれば確認していくということを主眼に開催している。すでに質疑に入っているが、時間も限られているので、そのことを改めて念頭に置いて質疑をするようお願いしたい。

島田委員

東所沢公園の話が少し出たが、やはり玄関口ということでいえば、実際に現地に行ったら止まっている噴水があり、自然も当時のものを残している良い公園だと思うが、植栽の管理も含めて、KADOKAWAにそれもお願いするというような話があるのか。委員長もお子さんとたまに遊ばれているようだが、地元の遊び場としての遊具も充実していて、地元での意見交換会でも静かな環境は残してほしいという意見もあった。それも踏まえ、東所沢公園のあり方はどのように考えていくのか。また、飯能市に視察に行ったときに、ムーミン基金という形でふるさと納税を利用しているという話が出ており、昨年397万円だったのが、今年の7月までには1,876万円ぐらい集まっているという話があった。橋やもろもろとお金がかかってくる中で、そうしたふるさと納税の活用法についてはどのように考えているのか。

市川経営企画
課主幹

まず、東所沢公園のあり方ですが、先程お話が出た噴水が止まっているという、あのあたりはこちらでもそれは問題があるという話が出ていて、噴水自体を残すのか、撤去するのかというその辺も含めてあのままにはしておけないだろうという状態ではございます。先ほど、私の方からも申しあげました自然環境の部分、植栽の面などはやはり自然地として公園の一角と位置づけたということもございますので、なるべく植栽はあの形を保ったまま、ただやはり単なる雑木林になってはよろしくないので、継続して面倒は見ていくようだとは思いますが、そこをKADOKAWAの

土地と一緒に管理するかどうかは、あそこは都市公園でもありますので、そのあたりの権限的な部分をもっと整理しなくてはいけないというところがございます。むやみにはその企業に指定管理のような形で管理を任せるとするのはなかなかしにくいところもあります。子どもさんの遊び場、遊具等があるというのは、そういった利用をされている方がかなり多いというお話を伺っておりますので、なるべくそういう機能は残したまま、また憩いの場として整備していきますので、あまりわらわらと人が来て、荒らされるようなことはこちらとしても望んではないところですので、そのあたりを注意しながら進めたいと考えています。ただ、敷地に向かっての動線という形になるので、そこから横にどれだけ逸れていくかというところをうまくコントロールしていこうと考えております。ふるさと納税につきましては、飯能市はかなり上手にムーミンのキャラクターを活用されているということも存じておりますし、やはりKADOKAWAの場合は単独のキャラクターで動いているというのと少し違うので、KADOKAWAという企業の持っている特性がどういったふるさと納税に合うのかというところは未知数の部分がございます。ただ、ふるさと納税という制度自体の活用の仕方というのは、これまでも活用させていただいており、地元の企業の良さだとか、地元の農産物の良さだとかというものを伝えていくようなものとしても活用できると思いますので、KADOKAWAと活動しているというアピールができるように媒体の1つとして活用できればよいと考えています。

吉村委員

今のふるさと納税の話だが、企業版のふるさと納税というのが今議論されている。これはぜひ考えていただいたほうがよいと思う。要するに、個人からのふるさと納税というのは限界がある。さっき言った飯能市とはちよつと違うので、所沢市としてはもし可能であれば企業版のふるさと納税を研究して、しっかり取り組んでもらいたいのがいい。それから、9自治会にこれから説明会等をしていくと思うが、この間話を聞いていて、かたや完全な市街化区域で住宅専用地域にお住いの方、かたやエリア的には反対側の東川の方で、こちら側のほうが土地の広さとしては圧倒的に広い。しかも、工業地帯とあとは100%市街化調整区域である。そういう意味では要望はかなり地域によって変わってくるので、これからのあそこの周辺地域の将来像も考えながら、今回のことを契機に地元の皆さんのニーズをしっかりと受け止めていただきたいと考えるが、いかがか。それから、親水公園については、前はぜひつくってもらいたいと思っていたが、普段はさほど水が流れていないということで無理かなと思っている。そのところ、KADOKAWAの反対側に人が歩く道があるが、あそこの土地はどこが所有しているのか。それから、東川の手前、中学校のあたりだが、川の傍らが階段になっている。結構広い、長い階段になっていて、座って川を眺めることができるような場所がいくつかあるが、あの程度の改良は考えた方がよい。今のままだと、前の浄化センターがあったときに水が流れていた状態が残っているので、かなり景観的にも厳しい。県との話し合い

の中で、少なくとも最低限そういった整備は交わしていただきたいと思うが、いかがか。

市川経営企画
課主幹

企業版のふるさと納税の件につきましては、制度が導入されるということで市としてもその可能性を探っている状況でして、KADOKAWAとして企業版ふるさと納税に参画したいというような話も直接いただいたところではあります。企業版のふるさと納税を導入するためには地域再生計画を策定しなければならず、COOL JAPAN FOREST構想であれば、おそらく認められるという感触を得たのですが、共同事業主であるKADOKAWAからCOOL JAPAN FOREST構想に対して、ふるさと納税を出すのは認められないということがありました。もし、KADOKAWAから企業版ふるさと納税をいただくのであれば、COOL JAPAN FOREST構想とは別の事業をある程度構えた上で、そこからいただくというような形になりますので、そのあたりは今後、国と調整を進めていきたいと考えております。ただし、KADOKAWA以外の企業からCOOL JAPAN FOREST構想に賛同しますということで企業版ふるさと納税を受け取ることは可能でございますので、その方向の検討も今後はしていく価値があるものと考えております。そのあたりの見込みがある程度立っていった段階では企業版ふるさと納税にも手を付けていきたいと考えております。次に、地元自治会のニーズの受け止めという件ですが、今後、地元の方たちには、ことあるごと

にお話をさせていただく機会を設けていく必要があると考えております。構想自体の説明だけではなく、地元との協力のあり方のような部分でもお話をさせていただかなければいけないと思いますので、できるだけ機会を設けていきたいと考えております。次に、東川北側の通路の関係ですが、あそこは河川用地に当たる部分でありまして、県の管理となっております。東川も松郷橋からもう少し西側に行ったところに、確かに下に降りられる階段がありますが、あれも県が整備したもので、実はアイデアの1つとして、あのような整備ができないかということを出してきたところではあります。東川のあのあたりは、下水の合流の関係もありまして、今のままでは親水公園というような形で、下に降りて行って水と戯れるというような整備は難しいのではないかと判断しております。

亀山委員

以前、東所沢駅の整備について、このままでいいのかということで質問をしたときに、これから交渉していくという話があったかと思うが、具体的にどういった内容で話を持ちかけていくのか。それから、バスロータリーは出入り口が1つしかなく、住民の方も送迎で使用しており今でも危険だが、人が多くなったら、交通安全の観点からあの辺の整備をどういうふうに考えていくのか。それから、桜については、市としてどういうふうに考えていくのか。

市川経営企画

東所沢駅の整備について、どういった働きかけ、内容で話をしていくの

かということですが、以前、東所沢駅の駅長とお話をさせていただいた経緯があります。例えば、ホームに人があふれてくるような状況が起こるようであれば、現在東所沢駅は線路の数が多いところでもありますので、そういう意味でのホームの安全対策であるとか、改札の流れをスムーズにする拡幅といった可能性があるのかという投げかけをしております。ただ、駅長の話ではJR東日本も経営的にもいろいろと厳しい状況もあるので、実際に東所沢に人が流れてくるというような現象が生じないと、あらかじめ手を付けるということは難しいであろうということでした。バスロータリーの件につきましては、東所沢駅としてのバスロータリーも当然考えとしてあるのですが、構想の中ではコンポストセンター跡地のところで、いわゆる路線バスの乗降場とロータリーということを、機能として検討しているところです。例えば、サクラタウン及びCOOL JAPAN FORESTのエリアに来場される方のバスはそちらに流すとか、東所沢駅のロータリーを拡大していくという考え方につきましては、面積が限られており、なかなか難しいものと思っておりますので、それ以外の方法で何とか混雑緩和を考えていきたいと考えております。3つ目の、市としての桜の考え方につきましては、今計画しているところでいきますと、KADOKAWAの敷地の範疇になってしまうかもしれませんが、サクラタウンの建物の植栽に桜を植えていきたいという話もありまして、こちらとしても市道2-572号線の拡幅をする場合には、河川敷の桜を何本か切らないと難しいであろうという状況もありますので、その代わりに敷地にあ

る程度接ぎ木をしたりとかということで、今河川敷にあるものを活かしていきましょうということで、サクラタウンの敷地であるとか、東所沢公園の桜だとかというものを、あのエリアの代名詞にしていきたいということを考えております。ただ、東川流域全体というところになりますと、構想の範疇から超えてしまうところではありますが、東川沿いなり狭山湖の桜といったものは、所沢市の観光資源、所沢市に愛着を感じる地元の人達の素材としても非常に大切なものだと思いますし、子どもの頃から慣れ親しんでいる方も大変多いと認識しています。具体的にどういった形で発信していくのかはまだ固まっておりませんが、そういった桜を含めた市内全体のみどりのネットワークといったような意味合いで推進していくということを、今後、考えていきたいと思っております。

大石委員

商店街について、どうしても市が関わっていかないと今回は組織できないのではないかと考えている。それぞれ自治会があって、オープンした後どういうふうに地元が連携を図っていくかを考えると、地元の自治会は細分化されているし、地区も駅前通りを境にして柳瀬地区と松井地区に分かれているといったことを考えると、1つの窓口になる組織があるべきだと考えるし、どういった方が担うかと言うと、やはりサクラタウンという施設ができて多くの来場者が来たときに、利益を生み出す人が受益者負担で行っていくべきだと思うので、そこは商店街組織をつくっていただくのがありがたい。その人たちが一緒になってつくっていけると、地元の活性化

のためにやっていけると思う。そのために商業観光課に話を聞いたが、商店街はもともと地元の人たちがつくるべきものと言われた。今まで商店街組織がなかなかできてこなかった地域でありますので、今回だけはやはり市が主だってこのCOOL JAPAN FOREST構想の中でつくっていくべきだと思うし、そうでなければなかなか立ち上がっていかないと。これは1、2年かかります。そして、商店街を組織して運営するのにさらに1、2年かかるでしょうから、オープンしてうまく運営していくのにも少し時間がかかると思います。ですから、この段階で早めに商店街組織をつくれなにかということ商業観光課と一緒に検討していくべきだと思う。モニュメント1つにしても、例えば境港市などは最初の一部分だけは市でつくり、その後は観光協会が1本100万円で全国から寄附を募ったりした。それから街路灯もそうですし、掲示板などもつくっていく必要もあるし、フラッグもつくるしということで、運営はそういった商店街の人たちが担うべきだと思いますので、今の段階でどのぐらい商業観光課と話をしているのかを示していただきたい。

市川経営企画
課主幹

商業観光課とどの程度話しているかということですが、具体的なことについて商業観光課とこういうふうに進めましょうというところまでは至っていません。ただ、あの地区において商店街組織が必要になるであろうということについては、十分認識しているところですので、商業観光課のお答えにご納得いただけない部分があったかと思いますが、そこはち

らも一緒になって、地元が出来上がることでこの構想自体の推進も当然推
力を増すであろうというふうに思っておりますので、それに必要な組織
体、また地元の人たちの活動にどんなものがあるか、可能性のあるもの
については、私共も携わりながら進めていきたいと考えております。

【質疑終結】

※経営企画部退席

休 憩（午前11時37分）

（休憩中に協議会を開催）

再 開（午後12時10分）

中村委員長

特別委員会として、提言を行うということによろしいですか。

（委員了承）

では、各会派で提言の案を出してもらい、正副委員長である程度まとめ
たものを委員長案として、次回の委員会でお諮りしていくことによろしい
ですか。（委員了承）

（2）次回の日程について

中村委員長

次回の委員会を8月30日におこなうことによろしいか。（委員了承）

散 会（午後0時12分）